

こずかた

No.146

令和3年7月15日発行
盛岡市教育研究所
☎019-651-4111(内7371)
印刷/セーコー印刷 651-3606

マスクの下にたくさんの笑顔を

盛岡市教育研究所長 紀修



令和3年度は、運動会・体育祭、修学旅行等の学校行事が、ウイルスと向き合いながら行われており、子どもたちのエネルギーが、学校生活に活気を与えていた。教育に携わる私たちには、子どもたちの明日、未来、人生へつながる学びについて、多くの視点が示され、取り組みが求められている。中教審の答申(R3・1・26)では、「令和の日本型学校教育の構築を目指して」とし、全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現が示された。また、「一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら

様々な社会的变化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようになることが必要」とされた。中教審の分科会長を務めた荒瀬氏は、子どもが主語となっていることの大切さを述べている。学校において、子どもが主語、主人公となる取組を進めるのは教職員であり、確かに子ども理解、明確なビジョンのもと、しっかりと見守ることが必要であると考える。時代は、効率化、スピード化が図られているが、見守るとは、しっかりと思考する時間、判断する時間、自ら行動する時間を保障することである。じつくりと子どもたちに目を向ける時間を大切にし、多くの主人公を育てていきたい。

世界的な取り組みである、SDGsは、誰一人取り残さない(leave no one behind)持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の目標であり、社会経済、環境の三側面からの17のゴールと169のターゲットから構成されている。目標4「質の高い教育

をみんなに」では、テーマ「すべての人間に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する」のもと、10個のターゲットが示されており、キーワードである「すべての子ども」を学級、学年、学校の教育活動に当てはめ、さらに多くの主人公を育てていきたい。

本県においては、東日本大震災津波から十年が経過した。発災当時、菅野洋樹教育長は、「その涙、嘆き、悲しみを、新たな可能性、未来への輝きへと変えていく。困難に直面しても諦めることなく自ら考え行動する力の大切さやつながり(絆)の重要性を、本県の教育の根幹に据え、郷土を愛し、そ

学校教育課では、「スマイル」「(小学校・国語学習材)の教え」「決して離れ離れにならないこと」「持ち場を守ること」「ぼくが目になると」と柱とした、組織・責任・主体性を土台に、各学校の特色ある教育課程を支え、子どもたちが、マスクの下でもたくさんの笑顔を見せることができるよう、職務に取り組んでいる。

をみんなに」では、テーマ「すべての人間に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する」のもと、10個のターゲットが示されており、キーワードである「すべての子ども」を学級、学年、学校の教育活動に当てはめ、さらに多くの主人公を育てたい。

学校教育課では、「スマイル」「(小学校・国語学習材)の教え」「決して離れ離れにならないこと」「持ち場を守ること」「ぼくが目になると」と柱とした、組織・責任・主体性を土台に、各学校の特色ある教育課程を支え、子どもたちが、マスクの下でもたくさんの笑顔を見せることができるよう、職務に取り組んでいる。

こずかた写真館④

学校司書研修会



今年度の学校司書研修会は、都南図書館に御協力いただき開催しました。会場入口には、職員の方々の思いのこもった

素敵な案内板を準備いたしました。
☆令和3年度
学校司書
配置校
11名
30校